

令和 6 年 5 月 2 日現在

機関番号：34519

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K07613

研究課題名（和文）摂食障害の予防と啓蒙についての調査研究—痩せすぎモデル規制の影響の検討—

研究課題名（英文）Research on prevention and awareness of eating disorders -Assessing the impact of the restriction on ultra-skinny models.

研究代表者

山田 恒（Yamada, Hisashi）

兵庫医科大学・医学部・講師

研究者番号：20464646

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：摂食障害治療者および当事者と家族、一般人、モデル事務所、マスメディアに対し、摂食障害や痩せすぎモデル問題に関する知識や意見を問う調査を行った。一般人男性および10代、マスメディアや芸能プロダクションの摂食障害についての理解が不足していることが明らかになった。また、回答者の所属するモデル事務所やメディアで痩せすぎモデルに対して対策をとっているのは8%のみであった。全体として、痩せすぎモデル規制への賛同的意見が多かった。今後これらをもとに摂食障害の予防と啓蒙を行っていく必要がある。雑誌メディアに露出するモデルの時代的变化については国立国会図書館での調査を行い、現在結果を解析中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本で痩せすぎモデルの規制について議論、調査されたことはこれまでになく、本研究で摂食障害の予防やファッションモデルの健康を守るための議論の土台となる重要なデータを得ることができた。これらを利用して、摂食障害の予防に有用な規制や啓蒙活動に取り組んでいく予定である。

研究成果の概要（英文）：We conducted a survey to inquire about the knowledge and opinions regarding eating disorders and the ultra-skinny models among patients with eating disorder, their families, the general public, modeling agencies, and mass media. It was found that there is a lack of understanding about eating disorders among the general male population and teenagers, as well as among mass media and entertainment production companies. Additionally, only 8% of the agencies took action against ultra-skinny models. Overall, there was a majority support for the restriction on ultra-skinny models. Based on these findings, it is necessary to prevent and raise awareness of eating disorders in the future.

A survey of the chronological changes in models in the magazine media was conducted at the National Library of Congress, and the results are currently being analyzed.

研究分野：精神医学

キーワード：摂食障害 痩せすぎモデル 神経性やせ症 予防

1. 研究開始当初の背景

摂食障害は若年女性に好発する過度の痩せと食行動異常を特徴とする精神障害である。主に食事制限と低体重を特徴とする神経性やせ症と、低体重ではないが過食と自己誘発性嘔吐や下剤濫用等の不適切な代償行為を伴う神経性過食症の2つに分類され、神経性やせ症の10年後死亡率は7~11%と報告されており、精神障害の中で最も高い。しかし、摂食障害の治療として有効な薬物療法はなく、幾つかの精神療法は比較的效果があるが、それも十分ではなく、未だ治療が難しい状態が続いている。欧米では摂食障害専門医療施設が治療の中心となっているが、日本には存在せず、治療資源は全く足りず、治療者の数も非常に少ない状態が続いている。摂食障害は、少なくとも90%が女性で、大部分が10代から20代に発症し、食べ物が豊富にあり、痩せた女性が魅力的とされる産業化された社会で発症することが知られており、発症には社会文化的要因が関与していることは明らかである。しかし、このような社会文化的背景下の女性全員が摂食障害になるわけではなく、社会文化的要因は発症の準備因子の一つとみなされている。やせていてスリムな体型であることが美しいとする社会的価値観は、現在の日本に溢れており、女性向けの雑誌にはいつもダイエットの特集が載り、テレビやファッション雑誌は、美しさの象徴として痩せた女性を起用して、ふくよかな女性に対しては「太っている」として醜いというレッテル貼りや、からかいの視線が向けられる。このようなメディアの状況は、若い女性に「痩せて理想の体型になれば、人生における問題は解決される」といった幻想を与え、このようなやせ礼賛の社会文化的価値観が、若い女性に過度のダイエット行動を起こさせ、極端な痩せや過食嘔吐につながる食行動異常を引き起こしているのではないかと考えられている。このような価値観に最も影響を受けているのが、メディアに露出するファッションモデルである。ファッションモデルに求められる痩せはどんどん加速しており、ファッションモデルでの摂食障害の罹患率は非常に高いとも言われている。2005年にブラジル人のトップモデルが摂食障害により急死し、その後も数名摂食障害による死亡者が出たことから、欧米でも痩せすぎているファッションモデルについての議論が沸き起こり、2006年にはイタリアとスペイン政府は、BMI (Body Mass Index) 18以下のファッションモデルのファッションショー出場の禁止措置をとった。その後も2012年にイスラエルがBMI18.5以下のファッションモデルのファッションショーと広告への出演を禁止。2015年にはフランス国民議会が痩せすぎモデル規制法を可決し、フランスでファッションモデルとして働くには、健康的な体型と体重であることを証明する医師の診断書を必要となり、さらにデジタル修正された写真には必ず「修正済み」と明記することが義務付けられ、罰則規定も設けられた。2016年1月にはロンドン交通局が「非健康的な身体像」を載せた広告を規制すると発表し、痩せすぎた水着姿のモデルを使用した広告の掲載を中止した。

痩せすぎモデルに象徴される、ファッション業界が普及させる美の基準は、ほとんどの女性にとって達成は困難であり、それを目指すことは健康を害する。痩せすぎた身体を求めることは摂食障害の危険因子であり、欧米各国では、摂食障害の発症を予防するために、痩せすぎのロールモデルとしてのメディアに露出する、痩せすぎモデルを法律で規制する取り組みが進んでいる。しかし、日本ではそのような取り組みは全く行われていない。日本でも、痩せ礼賛の社会文化的背景と摂食障害との関連を示した報告は多く存在し、女子大生を対象とした調査は、中学生以前から、細くておしゃべりなファッションモデルを雑誌でみることが、瘦身願望を通じて食事制限につながることを報告している。日本のファッション雑誌で活躍しているモデルの公表されている身長、体重からBMIを計算すると、BMI14-16台のモデルが数多く存在し、それは健康を害す

るレベルでの低体重にもかかわらず、メディアではそれが好ましい美の基準の持ち主として露出している。日本の代表するファッションショーである東京コレクションを主催する日本ファッションウィーク推進機構は、新聞の取材に「日本のショーで問題があるほど痩せ過ぎのモデルはいない」と語っている。

日本でも摂食障害の予防とファッションモデルの健康を守るために、痩せすぎモデルを規制するための法律の制定を考える必要があると考えられるが、そのための啓蒙活動や治療者間でのコンセンサスが得られていないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、摂食障害患者、家族、治療者、モデル事務所、一般人に、摂食障害に関する知識や痩せすぎモデル規制に対する意見を聞き、摂食障害の予防のための議論の土台となるデータを得ることである。また、日本での女性モデルの体重の推移なども明らかにし、現在の女性モデルの痩せについても明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は2つに分かれる。

研究1. 摂食障害患者、家族、治療者、モデル事務所、一般人に、摂食障害に関する知識や痩せすぎモデル規制に対する意見を問う。以下の4群で調査を行う。

- A) 摂食障害治療者に対して、摂食障害についての知識を問う。また、欧米各国の痩せすぎモデル規制を紹介し、ウェブアンケートにて、それに対する意見を求め、さらに日本での法律制定についての意見を求める。対象の摂食障害治療者として、日本摂食障害学会学会員および摂食障害懇話会の参加者を対象とする。医師、心理士、精神社会福祉士、看護師などの職種が対象となる。
- B) 摂食障害患者とその家族や支援者(パートナーや家族以外で患者を支援している者)に、摂食障害についての知識を問う。また、欧米各国の 痩せすぎモデル規制を紹介し、アンケートにてそれに対する意見を求め、さらに日本での法律制定についての意見を求める。対象となる摂食障害患者と家族として、兵庫医科大学精神科神経科および山田メンタルクリニック摂食障害外来を受診し、DSM-5 に基づいて摂食障害と診断された患者およびその家族、支援者を対象とする。
- C) モデル事務所、出版社、テレビ局、新聞社など大手メディアに対して、摂食障害に関する知識、モデルに要求している身長、体重、BMI と摂食障害に対するの対策、欧米各国の痩せすぎモデル規制について、アンケートにてそれに対する意見を求め、さらに日本での法律制定についての意見を求める。対象となるモデル事務所として、「日本タレント名鑑 2017」に掲載されたファッションモデルの所属事務所および一般社団法人日本モデルエージェンシー協会に登録されているモデル事務所を対象とする。
- D) 一般人に対して、摂食障害についての知識を問う。また、欧米各国の痩せすぎモデル規制を紹介し、アンケートにてそれに対する意見を求め、さらに日本での法律制定についての意見を求める。

研究2. 雑誌メディアに露出する、痩せすぎモデルの時代的变化とその実態の調査

平成 31 年度から 32 年度の間に、痩せすぎモデルが日本で日常的にメディアに露出していることを明らかにするために、日本のファッション雑誌、男性誌の表紙を飾るグラビアアイドルの最

近 30 年間の BMI の推移および平均を調査する。対象として過去 30 年間の「週刊プレイボーイ」「週刊ヤングジャンプ」などの男性誌および「sweet」「CanCam」などの女性ファッション誌の表紙となった女性モデルおよびミス・ユニバース・ジャパンの優勝者とする。これらの対象者の BMI などを国会図書館のバックナンバーなどで調査する。

4. 研究成果

研究 1. A), B)

2021 年 7 月～2022 年 3 月の調査期間で、一般人 474 名、当事者 240 名、支援者 53 名、医療関係者 254 名から回答を得た。一般人の 19%、特に一般男性の 36.3%は摂食障害という病気を知らなかった。欧米では痩せすぎモデルが政府や法律、業界団体によって規制されていることについては、一般人の 43%、特に一般人の 10 代では 66.1%が知らなかったが、当事者や支援者は 80%以上が知っていた。痩せすぎモデルの存在が摂食障害の発症に影響することについては、一般人の女性の 82.3%は知っていたが男性は 64.7%しか知らなかった。日本では、多くのモデルが健康を害するレベルの痩せすぎに該当することは、一般人女性の 66.9%は知っていたが、男性は 46.1%しか知らなかった。日本での痩せすぎモデル規制については、一般人の 63%が必要、32.5%が検討すべきとしており、当事者、支援者、治療者の約 80%が必要と考えていた。一般人の 82.7%、それ以外の群の 90%以上が、痩せすぎモデル規制が社会的に良い影響があると回答した。ヨーロッパでは、体型などをデジタル修正された写真にはそのことを記載する義務が法律で定められている国があり、日本でもデジタル処理された写真への修正明記を義務付けるべきかという質問に対しては、一般人の 71.7%、それ以外の群の約 90%弱が賛成を示した。一般人男性および 10 代の摂食障害と痩せすぎモデル問題についての理解の低さと、痩せすぎモデル規制についての賛同的意見の多さが明らかとなった。

研究 1. C)

894 施設にアンケートを郵送し、26 名から回答を得た。回収率は 2.9%であった。内訳は、マスメディア 21 名（放送局 8 名、出版社/新聞社 11 名、詳細不明 2 名）と芸能プロダクション 5 名であった。摂食障害という病名については 88%が知っていたが、BMI17.5 以下は神経性やせ症（摂食障害の中で、拒食症と呼ばれる病気）の基準を満たすことは、77%が知らなかった。欧米では痩せすぎモデルが政府や法律、業界団体によって規制されていることについては、65%が知っていた。痩せすぎモデルの存在が摂食障害の発症に影響することについては、65%が知っていたが、マスメディアの男性は 75%が知らなかった。日本では、多くのモデルが健康を害するレベルの痩せすぎに該当することは、65%が知らなかった。日本の若い女性に痩せすぎが多いことも 42%が知らなかった。日本での痩せすぎモデル規制については、50%が必要、38%が検討すべきだと回答した男女で大きな差があった。痩せすぎモデル規制が社会的に良い影響があると回答したのは 80.8%であった。デジタル処理された写真への修正明記を義務付けるべきかという質問に対しては 77%が賛成を示した。回答者の所属するモデル事務所やメディアでは痩せすぎモデルに対して何らかの対策をとっているかについては、対策をとっているのはたった 8%であり、対策の予定があるのも 8%であった。マスメディアおよび芸能プロダクションの摂食障害と痩せすぎモデル問題についての理解の低さが明らかになった。一方、痩せすぎモデル規制についてはマスメディアからは賛同的意見が多かった。

研究 2.

国立国会図書館にて、1982 年～2023 年に発刊された「CanCam」の表紙および女性モデル、1966

年～2023年に発刊された「週刊プレイボーイ」のグラビアの女性モデルの身長、体重、体型などの調査を行うとともに、身体シルエット図である Japanese Body Silhouette Scale type-I (J-BSS-I)、身体輪郭評定尺度である Contour Drawing Rating Scale (CDRS) を用いて体型を評価した。データは現在解析中であり、今後結果をまとめて報告予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山田恒	4. 巻 121
2. 論文標題 欧米での痩せすぎモデル規制メディアに氾濫する不健康なロールモデルに対するリーガルモデルと医学モデル（特集 摂食障害 その人格の病理、社会的背景の影響と治療的意味：痩せすぎモデル禁止法に向けて）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 479-485
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田 利彦, 山下 達久, 山田 恒, 水原 祐起, 水田 一郎, 野間 俊一, 田中 聡, 崔 炯仁, 和田 良久, 岡本 百合, 鈴木 眞理, 宮岡 等	4. 巻 120
2. 論文標題 無視されてきたダイエットと痩せすぎの危険性 痩せすぎモデル禁止法に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 741-751
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田恒	4. 巻 139
2. 論文標題 痩せすぎモデル問題とその背景-どうして欧米では規制が進んでいるのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床栄養	6. 最初と最後の頁 682-684
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山田 恒, 本山 美久仁, 松永 寿人
2. 発表標題 摂食障害の予防と啓発についての調査研究- 痩せすぎモデル規制の影響の検討
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本山 美久仁, 山田 恒, 松永 寿人
2. 発表標題 摂食障害の予防と啓発についての調査研究- 痩せすぎモデル規制の影響の検討
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田 恒, 本山 美久仁, 松永 寿人
2. 発表標題 摂食障害の予防と啓発についての調査研究- 痩せすぎモデル規制の影響の検討
3. 学会等名 第25回日本摂食障害学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本山 美久仁, 山田 恒, 松永 寿人
2. 発表標題 摂食障害の予防と啓発についての調査研究- 痩せすぎモデル規制の影響の検討
3. 学会等名 第25回日本摂食障害学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田恒, 本山美久仁, 吉村知穂, 松永寿人
2. 発表標題 摂食障害の予防と啓発についての調査研究- 痩せすぎモデル規制影響の検討-
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田恒
2. 発表標題 痩せているって、本当に良いこと？-ダイエットの不都合な真実とメディアとの関係について、専門家と経験者が話します-健康体重と ダイエットの不都合な真実
3. 学会等名 第24回日本摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒
2. 発表標題 欧米での痩せすぎモデル規制:メディア に氾濫する不健康なロールモデルに対するリーガルモデルと医学モデル
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田恒
2. 発表標題 人格の病理としての摂食障害、痩せすぎモデル規制に向けて-痩せ礼賛文化的視点から
3. 学会等名 第22回日本摂食障害学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

精神疾患の臨床 身体的苦痛症群/解離症群/心身症/食行動症または摂食症群. 中山書店 (2021)
トピックス: 欧米における「やせすぎモデル規制法」の動き, 421-425

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------